

がん化学(放射線)療法レジメン申請書

* 記入不要です

申請期日	2008/9/30
診療科名	腎・泌尿器科
診療科長 署名	
申請医師 署名	
登録確認日	
登録削除日	

受付番号	*
がん腫(コード)	*
レジメン登録ナンバー	*

以下(a), (b)は 2 ページ目記載の参考にし

がん種	レジメン名	実施区分	使用分類	適応分類
前立腺癌	ドセタキセル(タキソテール)療法	<input type="checkbox"/> 入院 <input type="checkbox"/> 外来 <input checked="" type="checkbox"/> 入院及び外来	<input checked="" type="checkbox"/> 日常診療(試験以外) <input type="checkbox"/> 単施設自主研究 <input type="checkbox"/> 多施設自主研究 <input type="checkbox"/> 市販後臨床試験 <input type="checkbox"/> 治験 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 術前補助化学療法 <input type="checkbox"/> 術後補助化学療法 <input checked="" type="checkbox"/> 通常化学療法 <input type="checkbox"/> 大量化学療法 <input type="checkbox"/> その他()

臨床試験の場合記入	
期間	~
Phase	<input type="checkbox"/> I <input type="checkbox"/> I/II <input type="checkbox"/> II <input type="checkbox"/> II/III <input type="checkbox"/> III <input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> その他

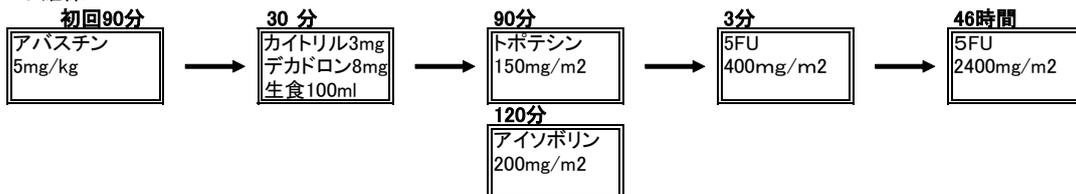
てください。

(a)投与スケジュール記載例

開始時の設定投与量	mg/kg	day	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
薬剤名	mg/m ²																												
アバスタチン	5mg/kg	●																											
トポテシン	150mg/m ²	●																											
アイソボリン	200mg/m ²	●																											
5FU	400mg/m ²	●																											
5FU	2400mg/m ²	●																											

(b)1 日のスケジュール記載例

ルート確保



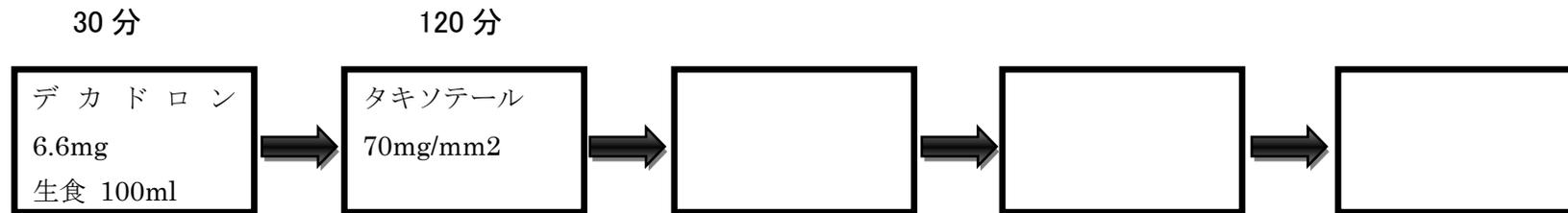
1ページ目の記載例に準じて記入してください。

(a) 投与スケジュール

(行の挿入、表のコピーペーストは可能です。)

薬剤名	投与量	day1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
		ドセタキセル(タキソテール)	70mg/m ²	○																									
1コース期間		21日				目標コース数				□有 (コース)				■無(PDまで)															

(b) 1日のスケジュール (投与時間も記入してください。テキストボックスはコピーアンドペーストで増やせます。)



(審査の参考にしますので簡単に記載してください。)

基準項目	ホルモン不応性前立腺癌に対するタキソテル療法
適格基準	ホルモン治療に抵抗性になった前立腺癌
除外基準	WBC 4000/mm ³ 未満(好中球数 2000/mm ³ 未満) 血小板数 10,000/mm ³ 未満 肝機能、腎機能障害(主治医により判断) 間質性肺炎
開始基準	ホルモン治療(LH-RH アゴニスト、抗アンドロゲン剤)に抵抗性になった前立腺癌
次コース 開始基準	21 日—28 日後、1ヶ月に 1 回 PSA を測定し、判断する。
休薬基準	骨髄抑制、肝腎機能障害などが起こった場合。
投与量 変更基準	
中止基準	

・本レジメンが、臨床試験の場合はプロトコルの解説を簡単に記載してください。

・レジメン審査の規準は以下のとおりとなっています。

- ① 標準治療であること。または、標準治療に準ずる治療であること。
- ② IRBの審査を受けた試験であること。

これらの規準をふまえた上で、本レジメンのエビデンスを簡単に記載してください。

前立腺癌の標準的な治療は手術、放射線、ホルモン療法である。

しかし有転移症例に対する治療法としてはホルモン療法しかなく、治療後 2 年以内で再燃しホルモン抵抗性前立腺癌として進行しその後の予後は厳しいものとして認識されてきた。従来、前立腺癌に対する有効な抗がん剤はないとされていたが、近年、ホルモン抵抗性前立腺癌にたいするタキソテール療法がその生命予後を改善することが報告されてきた。今回 8 月にタキソテールが前立腺癌に対しての認可が認められたため、当院においても標準的治療として行なっていきたい。